

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		国際交流推進事業		担当課 市民協働推進課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間 平成元年度～
	施策	生涯学習の推進		種別 任意の事務
	基本事業	国際交流の推進		市民協働 事業協力
予算科目コード		01-020703-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市青少年海外派遣実施要綱 外国人のための語学支援者登録制度要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
もりや工業団地にドイツとアメリカに縁のある企業が進出したことをきっかけに、ドイツ・マインブルク市（1990年）、アメリカ・グリーリー市（1993年）と国際姉妹都市を提携したことから、市民レベルでの訪問・交流が始まった。	姉妹都市交流として、国際姉妹都市からの学生訪問団を受け入れ、訪問団と市民との交流の機会を設けることで、市民間の交流を推進する。 国際交流協会と連携して姉妹都市訪問団の日本文化体験や市民宅へのホームステイ、市内学校訪問等を行う。 青少年海外派遣として、夏休み期間に姉妹都市に青少年を派遣し、ホームステイを通じて市の国際交流事業の担い手育成を行うとともに、グローバル社会に対応できる人材育成を目的とする。ドイツ・マインブルク市、アメリカ・グリーリー市の2市を1年交代で訪問する。 国際交流協会と連携し、市民と行政がそれぞれの特性を生かした事業を行う。地域に暮らす在留外国人のための日本語教室、国際理解を推進するための協会事業の支援をする。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民の国際意識の醸成を図り、国際姉妹都市との友好関係が市民を中心とした交流に発展させるため支援する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、異文化を尊重・理解して、外国人と接することができるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
①青少年海外派遣 市民にとって国際交流の良い契機となっているが、対象者数が少数であり、さらに継続性が低く単発的参加事業となっている。また、応募者数が減少傾向にある。	市民に対して広く周知・協力依頼をすることで、国際交流への積極的かつ継続的な参画を促す。
②姉妹都市交流 市民交流に発展させるため、姉妹都市訪問団来市はホストファミリー（受入家庭）という仕組みで受入れているが、受入家庭の応募者数は少数に留まっており、訪問団の都市によってもバラつきがある。さらに本事業の新規参入者が少ない。	①青少年海外派遣 4～5月：派遣団員の募集・決定 6～7月：事前研修（全6回） 7月：派遣（グリーリー市：9日間） 10～2月：平成31年度派遣スケジュール等の調整 3月：事業参加経験者への面接・研修協力依頼 平成31年度参加募集の準備（HP、SNSで募集予告）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
青少年海外派遣や受入家庭募集の際に、市広報紙やホームページのみならず、SNSの活用や市国際交流協会等を通じた周知に努める。 また、青少年海外派遣事業及び姉妹都市交流事業に参加経験のある市民に対して、海外派遣の研修や姉妹都市訪問団との交流プログラム等への協力を呼びかけることで、継続的な活動の場を創出する。	②姉妹都市交流 4月～6月：マインブルク市訪問団受入家庭の募集・決定 5月：ノーザンコロラド大学訪問団の来市（市国際交流協会主催の教育実習生受入） 7月：マインブルク市訪問団受入家庭事前説明会 8月：マインブルク市訪問団来市（7日間） 受入家庭との交流プログラム実施 10～2月：来市スケジュールの調整 1～2月：平成31年度受入家庭募集の準備（HP、SNSで募集予告） 3月：平成31年度受入家庭の募集開始→SNSで締切間近の告知
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	当該事業の課題改善に対し、新たな予算計上は必要ないため、現状を維持する。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度を取組（評価、課題への対応）
・ 既存の国際交流関連事業の充実	・ 国際交流協会と協働で姉妹都市先の大学と市内中学生との交流事業を実施した。 ・ 青少年海外派遣事業は派遣団員数10名に対し、応募者数が15名と低倍率となってしまったことから、事業の募集時期、募集方法の改善が必要である。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
国際交流関連事業の延べ参加者数（人）	1, 219. 00	1, 627. 00	2, 026. 00	1, 500. 00	1, 150. 00
	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	国際交流協会との協働により、従来の事業に加えてノーザンコロラド大学訪問団と市内中学生との交流事業を実施することができたことから成果が大きく向上した。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	国際交流関連事業の実施状況・実施日程を考慮すると、市主催による新規事業の創出は困難であるため、大幅な参加者数の増加は見込めない。今後は既存事業の充実を図ることに加え、青少年海外派遣及び姉妹都市交流事業に参加した市民が姉妹都市市民と継続的な市民間交流ができるよう支援する。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	356	4, 088	3, 748	4, 115	4, 080
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	356	2, 396	2, 375	2, 577	2, 600
	一般財源	0	1, 692	1, 373	1, 538	1, 480
正職員人工数（時間数）		413. 00	948. 00	1, 655. 00	0. 00	0. 00
正職員人件費		1, 693	3, 887	6, 910	0	0
トータルコスト		2, 049	7, 975	10, 658	4, 115	4, 080

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		国際交流員事業		担当課 市民協働推進課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間 平成10年度～
	施策	生涯学習の推進		種別 任意の事務
	基本事業	国際交流の推進		市民協働 事業協力
予算科目コード		01-020703-03 単独	根拠法令・条例等	守谷市国際交流員任用規則

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
ドイツ・マインブルク市及びアメリカ・グリーリー市との国際姉妹都市締結に伴い、国際姉妹都市関係の強化、地域レベルでの国際化の推進を目的とし、平成10年からJETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）による国際交流員の任用を開始した。	（一財）自治体国際化協会のJETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）活用により、市の国際交流活動に従事する国際交流員1名を任用し、国際交流事業の企画立案及び実施協力、海外からの訪問客の接遇、地域住民の異文化交流活動への協力、小・中学校における特別活動・課外活動への協力等を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民に対し広くドイツ語やドイツ文化に触れる機会を提供することで、市民の異文化理解の機会を創出する。また、国際交流員を通じて、国際姉妹都市との円滑な連携を図る。さらに、在住外国人に対する行政サービスの語学面での補助が期待される。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、異文化を尊重・理解して、外国人と接することができるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
国際交流員が実施する語学講座は、依然として参加希望者が多く回数も増加しているが、その多くが過去にも参加経験のある市民であり、参加者が固定化傾向にある。	一部の市民にとどまらず、より多くの市民がドイツをはじめとした異文化に接することができる自主事業を展開すると同時に、国際交流員の活動等の周知をし、市内団体等から国際交流員の積極的な活用を促す。 5～7月：中級ドイツ語講座（自主） 6月：「ようこそ守谷」ブース出展（自主） 6～7月：青少年海外派遣研修（自主） 7月：キッズ絵画教室（派遣依頼） 8月：マインブルク市訪問団の来市（自主） 8～10月：初級ドイツ語講座（自主） 11月：駅前子育て広場「ザンクト・マーティン」イベント（派遣依頼） 守谷市国際交流協会主催「多文化共生シンポジウム」（派遣依頼） 11～1月：中級ドイツ語講座（自主） 12月：土塔中央保育所・北園保育所交流事業（自主） 1～2月：新HP及びチラシ作成のための情報収集・整理 2月：土塔中央保育所・北園保育所交流事業（自主） 3月：新HP案及びチラシ案作成 ※平成32年度対応 4～5月：新HPの作成・公開、チラシの作成・配置
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
市民に広くドイツ語及びドイツ文化に触れる機会を提供するため、公民館等の公共施設に国際交流員派遣事業のチラシを配置して、施設利用者や利用団体に周知する。また、市ホームページの国際交流員に関するページを一新し、活動報告など定期的に更新することで最新の情報を発信する。 「ようこそ守谷」など多数市民が参加するイベント等で異文化理解の活動を行い、国際姉妹都市との事業や国際交流員の活動のPRに努める。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	現国際交流員の任用契約終了及び新任者の任用に係る報酬、負担金等が増加するため。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度を取組（評価、課題への対応）
・幅広い市民に対する異文化理解の機会を継続して提供する。	・市内公立保育所で各2回（計4回）、国際交流員による「楽しい英語遊び」講座を実施し、幼児の異文化への興味・関心を高めることができた。 ・「ドイツ語講座」はドイツ語未経験者が参加可能であることを明記し、新規で受講する市民が増加した。 ・「ドイツ語講座」は新規受講者が増加しているが、固定化している参加者も多いことから、募集方法等に検討の余地がある。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
国際交流員が実施した講座等の実施回数（回）	49.00	71.00	61.00	60.00	80.00
国際交流員が実施した講座等の延べ参加者数（人）	1,152.00	1,341.00	1,458.00	1,400.00	1,040.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	・ドイツ語講座を午前・午後の2部制にして定員以上の受講希望者のニーズに対応したこと、新規に市内公立保育所と共催で英語に触れる体験講座を複数回実施したことにより、国際交流員実施講座等の参加者数が増加した。 ・国際交流員派遣事業を活用した団体がドイツ大使館主催の絵画コンクールで最優秀賞・優秀賞を受賞するなど、国際交流員の事業を契機に市民の国際交流活動が活発になっている。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	・受講希望者が多いドイツ語講座を2部制の講座とすることで受講者のニーズに対応しているが、講座運営を鑑みると現在の形式以上の対応は困難であることから、参加者数は現状維持とする。 ・H31年度8月に現国際交流員から新任者に代わるが、既存事業を継続し、参加者数が維持できるよう努める。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	4,555	4,936	4,961	5,799	5,000
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	4,555	4,936	4,961	5,799	4,000
	一般財源	0	0	0	0	1,000
正職員人工数（時間数）		1,169.00	1,314.00	1,399.00	0.00	0.00
正職員人件費		4,793	5,387	5,841	0	0
トータルコスト		9,348	10,323	10,802	5,799	5,000

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		国際交流研修センター維持管理事業		担当課	市民協働推進課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成 2年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	国際交流の推進		市民協働	その他
予算科目コード		01-020703-05 単独	根拠法令・条例等	守谷市国際交流研修センター設置及び管理に関する条例 守谷市国際交流研修センター管理運営規則	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成2年度にアサヒビール（株）茨城工場竣工を記念し、同社から寄贈された。	国際交流研修センター設備の点検・清掃委託・光熱水費の支払い等、日常の維持管理業務を行う。 また、毎週火曜日と年末年始を除く開館日に、シルバー人材センター委託による管理人を置くことで、利用者への対応等の施設管理を行う。 さらに、施設の老朽化が進んでいることから、計画的な修繕を実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
施設の適切な維持管理により、国際交流活動及び社会教育活動の拠点として本施設を機能させ、市民の国際交流活動及び社会教育活動の充実及び発展に寄与する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、異文化を尊重・理解して、外国人と接することができるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
施設の老朽化が進み修繕箇所が増えている。	・施設の修繕計画の策定 H30.4～H31.3 施設の修繕計画の策定 H31.4～ 計画に基づく修繕の実施 ・館内設備の更新 H30.4～ 管理人による館内設備の確認 H30.4～ 設備の確認結果に基づく計画的な修繕
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
公共施設等総合管理計画に基づき、施設の修繕計画を策定する。 また、館内設備の更新等についても、計画的に実施する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☒ 削減	H30年度に室内照明修繕工事（LED化）が終了したため。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の取組（評価、課題への対応）
・ 築後25年以上を経過し、施設の老朽化による修繕箇所が増加傾向にあるため、今後も定期的な点検の実施及び計画的修繕が必要である。	・ 大ホールの天井照明器具をLED照明に交換する工事を実施することで、既存の照明器具以上の照度を確保することができた。また、照明をLED化したことにより照明器具の消費電力が10分の1以下となり、省エネルギー化が実現できた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
年間延べ利用者数（人）	11,636.00	11,304.00	13,045.00	13,000.00	12,189.00
年間貸し出し件数（件）	494.00	495.00	596.00	600.00	600.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	平成30年度は大きな施設・設備の改修工事等のための休館日が、前年度との比較で10日程度少なかったことから、利用件数、利用者数共に微増したと思われる。 平成31年度も長期休館とする計画的改修等の予定がないこと、他の公共施設の大規模改修に伴う長期休館の波及効果で、本施設の利用者数・利用件数が一時的に本年度並、又は本年度以上の数値になることが見込まれる。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	多くの市民が利用している施設であり、今後も多くの市民に利用いただけるようセンターの適正な維持管理を実施していくが、築後25年以上経過していることから、施設の予防保全のための定期的・計画的な修繕が必要である。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	5,721	6,107	6,454	5,773	5,700
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	244	243	242	227	230
	一般財源	5,477	5,864	6,212	5,546	5,470
正職員人工数（時間数）		219.00	96.00	195.00	0.00	0.00
正職員人件費		898	394	814	0	0
トータルコスト		6,619	6,501	7,268	5,773	5,700

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		国際交流基金	担当課	市民協働推進課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成元年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	国際交流の推進	市民協働	事業協力
予算科目コード		01-120104-01 補助	根拠法令・条例等	守谷市国際交流基金条例

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 市が行う国際交流事業に関する費用を賄うため基金
市民を主体とした幅広い分野における国際交流を推進し、市民の文化の向上に資するとともに国際親善に寄与するため、守谷市国際交流基金を平成元年に設置した。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市の国際化を推進する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、異文化を尊重・理解して、外国人と接することができるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下					
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了					

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	24	17	16	0	0
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	24	17	16	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	0	0	0
トータルコスト		24	17	16	0	0